

県高体連柔道専門部より
令和3年度県高校新人柔道大会における感染拡大防止に係る連絡事項

1 競技に関する感染予防対策について

- (1) 大会前に関係者（選手・部員・指導者・大会役員）からコロナ感染者または濃厚接触者が発生（クラスター感染等）した場合は、大会を中止する事もある。
- (2) すべての関係者（役員・審判員・補助員・顧問・選手・部員）は体調チェック表（高体連様式1～3，当日，様式4），参加同意書を提出する。大会当日，検温を実施し、発熱者（ 37.5°C 以上）や体調不良者の参加は断る。
- (3) すべての来場者はマスクを着用し，選手はアップ中及び試合中以外はマスクを着用すること。また、他との距離を確保（2m以上）し、大きな声での会話、応援はしない。

2 大会運営について

- (1) コロナ感染予防対策として，全柔連ガイドライン，県高体連ガイドライン，鹿児島アリーナ感染対策を遵守し，選手の安全，大会中の感染拡大予防を最大限に考慮する。
- (2) 会場準備：1日 17：00～（選手，補助員，各校顧問で行う）
 - ・ 3密を避けるために時間差の入場をおこなう。
 - ・ 選手，補助員，各校顧問入場 8：30～（アップ会場をサブと武道場に分ける）
 - ・ 役員入場 9：00～
 - ・ 受付時に同意書，体調チェック表，当日体調チェック表を提出する。
- (3) 開会式，閉会式を簡略化する。

3 会場について

- (1) 入場制限について
 - ・ 1階サブアリーナ・・・当該試合・アップ選手，役員のみ（175名制限）
 - ・ 武道場・・・当該試合・アップ選手以外（100名制限）
- (2) 試合場（サブアリーナ）、練習会場（武道場ⅠⅡ）は選手，補助員のみ入場可。
- (3) 会場入り口に消毒液を設置する。トイレに石鹸・消毒液を設置する。各試合場に消毒液を設置する。会場内に感染拡大防止の表示を行い、施設や用具は適宜消毒を行う。
- (4) 感染防止のため、更衣は男子がサブアリーナフロア後方付近、女子が女子更衣室を使用し、間隔をあけて更衣すること。
- (5) 感染防止のため、ゴミは必ず各自で持ち帰ること。
- (6) 大会・報道関係者は会場入口で感染防止チェックおよび入場者名簿（専門部様式）の記入を行う。必ず検温し発熱者（ 37.5°C 以上）および体調不良者は入場を断る。
- (7) 大会終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、主催者に対して速やかに濃厚接触者の有無等について報告すること。

新型コロナウイルス感染症に関する対応について
大会開催にあたっての注意事項（全柔連ガイドライン）

1. 主催者の責務

主催者は大会開催にあたり、感染予防と万が一感染者が発生した場合のクラスター発生予防に最大限の努力を払わなければなりません。試合の準備段階から当日の運営、感染が発生した場合の対応や事後処置などを細かく決めて、参加者（選手・監督・コーチ・役員・係員・審判員・観客・応援予定者など）に周知し同意を得ておく必要があります。事前に同意が得られなかった観客などには、当日の対応が必要です。以下の項目ごとに注意点をあげます。

① 会場の選択と設営、総人数の検討

開催にあたり、会場の選択は可能な限り密集、密閉を避けるために、試合場観客席の広さに応じて、選手数、審判、役員数、観客数を決定する。選手控室、役員席観客席も隣席との距離が1～2m以上離れる設定とする。会場や共用施設の消毒、清掃などについては練習施設の一般衛生上の注意に準ずるが、各会場によって会場規模や管理方法が異なるので大会主催者が事前に清掃、消毒方針を決定しておく。

② 健康記録表のチェックと保管

選手・役員・係員・審判員などすべての参加予定者に事前に健康記録表を渡し、当日入場時に過去2週間前からの健康記録をチェックする。当日参加の観客・応援者などには当日配布しチェックした後に入場を許可する。体温計は準備しておく。チェックした健康記録表は主催者が責任を持って個人情報不漏洩しないように注意し、厳重に鍵付きの保管庫で保管する。また、大会翌日から2週間健康記録をチェックする。保管時期は概ね1ヶ月とし、保管時期終了後は確実にシュレッダーで破棄する。

③ 健康記録表や症状による入場拒否

主催者は、健康記録表の提出がない者の入場を許可しない。参加者の健康記録表に異常（発熱や有症状）がある場合や以下の場合には参加者の入場を断る。

ア 体調がよくない場合（例：発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合）

イ 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合

ウ 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合

④ 感染予防措置の決定と事前通知、同意取得

マスク着用の有無、手洗い義務、施設設備の消毒や清掃、共同施設の使用方法など感染予防措置や注意事項について事前に決定し、参加者にも感染予防措置を周知しておくこと。試合中に感染予防措置を遵守できない参加者は、他の参加者の安全を確保する等の観点から、参加者を取消したり途中退場を求めたりすることがあり得ることを周知し同意を得ておく。

2. 選手への対応

選手は試合場に到着時、選手受付で2週間前からの健康記録表を大会委員長に提出します。また、当日、会場でも体温チェックを行います。健康記録表を持参しない選手、健康記録表で発熱（37度以上）や症状を有する選手は試合に参加できません。他の参加者と同じ扱いで参加の有無を判断します。団体戦では、試合待機中の位置取り（選手間は1～2m離す）に注意し、大声での応援、指示は禁止します。

3. 監督・コーチ・大会役員の対応

選手と同様に健康記録表を提出し、また、当日、体温チェックを行い、同じ基準で参加の可否を判断します。選手以外の役員、監督、コーチなどのマスク着用に関しては大会主催者が判断します。

★試合中の大声での指示、指導の禁止

国内外を問わず国際柔道連盟試合審判規定で行われる試合では、試合中断中（主審の「待て」から「はじめ」までの間）以外でのコーチの発生については、審判員から厳しくコントロールされ1回目は口頭注意が出され、2回目は退場が命じられます。今後、国内の試合では国際柔道連盟試合審判規定に拠らず、大会主催者は大会規模、参加人員、会場面積等を検討した上で、大会の申し合わせにより、試合中（全ての間）の大声での指示、指導は禁止し、審判員に注意と退場の権限を与えることとします。

4. 審判員および係員の対応

主催者および審判長は審判員、係員に対して、以下いくつかの注意点をあげて説明、指導とします。

- ① 審判の依頼と所在地：都道府県や地域で行う大会では、主催者は県境をまたぐ審判に依頼しないこと。ブロック大会、全国大会においては他のエリアからできるだけ参加させないようにすること。
- ② マスクの着用：大会の再開基準は段階4であり、この際の選手はマスクをつけなくてもよい段階なので、基本的に審判員もマスク着用は不必要であるが、その大会主催者の判断に従うこと。従ってマスクは持参しておくこと。
試合場に上がらない審判委員、副審（1審判制）は、マスクを着用することが望ましい。
- ③ 試合中の位置取り：審判同士や選手とは、十分な距離（少なくとも2m以上の距離）を空けるが、技の判定（特に締技）の判断には近接での判断が必要な場合もあるので臨機応変に対応する。原則締め落ちへの対応については、感染防護措置を施した医師が対応することとする。
- ④ 試合中の監督・コーチ・選手のコントロール：監督や選手、コーチが試合場で大声を出し応援や指示をする場合には、厳しくコントロールする。
大会主催者は会場放送等で選手間の距離（1～2m以上を離す）も近接している場合には注意をする。

- ⑤ 観客・応援者への注意：大会主催者は会場放送等で試合場周囲の観客席からの大声の応援や身体間距離を取らない応援を注意する。
- ⑥ 選手・監督・コーチ・役員や観客・応援者などすべての参加者に、感染予防措置を守らない場合には途中退場があることを、主催者から通達しておく。
- ⑦ 手洗い・消毒：こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒を実施すること。手洗いやアルコール消毒は主催者が準備しておく。
- ⑧ イベント終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、主催者に対して速やかに濃厚接触者の有無等について報告すること。
- ⑨ 試合場の清掃、消毒：出血や汚物などで汚れた会場は、審判員の指示で主催者・係員が必要に応じて清掃・消毒を行う。
- ⑩ 飲食：指定場所以外では行わず、周囲の人となるべく距離をとって対面を避け、会話も控えめにすること。会食は、極力少人数で行い、大皿での取り分けや回し飲みはしないこと。飲みきれなかった飲み物を指定場所以外に捨てないこと。

5. 観客の在り方

無観客とするが、数を制限して観客を許可するかは、地域や主催者の判断によりますので、主催者が十分に検討して判断してください。観客を入れる場合もこれまで述べた感染予防措置は順守してください。

- ① 人数制限：会場は観客席の広さや配置から最大許可人数を決め、その人数制限を守る方法を事前に検討する。事前予約の場合には、健康記録表や入場基準、感染予防措置の詳細を周知しておく。
- ② 健康記録表：入場時に健康記録表をチェックし回収する。個人情報取得の必要性（クラスター発生時の追跡と連絡）と保管時期、取り扱いについて説明し同意を得る。
- ③ 健康記録表による入場制限：選手や役員、審判員と同じ基準で有熱者や有症状者は入場を断る。
- ④ 観客席：観客間は1～2m距離を取る。
- ⑤ マスク着用と手洗い、消毒：主催者の判断でマスクを着用する。入口にての消毒設備を設置しておく。
- ⑥ 応援態度：密集する応援や大声での応援は禁じる。主催者が中止し、注意を守らない観客には退場を宣告する。
- ⑦ 共用施設（トイレなど）の使用：手洗いや消毒、清掃について、注意点を事前に記載して掲示しておく。

6. 大会参加申し込みについて

- ① 顧問は必ず、選手及び保護者から大会参加の同意書を取り、校長責任のもと申し込みを行う。同意書は主催者に提出すること。
- ② 大会参加を強要することがないよう配慮すること。

令和3年度 県高等学校新人柔道競技大会 選手関係者の方々へ

柔道は3密を避けられない競技です。大会で感染者が発生しないよう以下の注意事項をよくご理解いただき、大会前の日常生活で実行していただくようお願い申し上げます。

1. 顔を触れる前には必ず手指衛生を

ウィルスは目と鼻，口から体内に侵入します。咳やくしゃみによる飛沫感染だけでなく，手指を介した接触感染も問題です。人は1時間に20回以上顔を触るとされています。こまめの流水と石鹸による手洗いやアルコール消毒を心掛けて下さい。

2. 「3密」をさける

新型コロナウイルスの潜伏期（発症するまでの期間）は最長で2週間と言われています。大会2週間前から不要不急の外出は極力自粛し，3密となりやすい飲食店などの利用は控えて下さい。

3. 大会初日の2週間前からの体調チェックのお願い

10月19日から毎日検温をお願いします。体温と健康状態の添付の体調チェック（健康調査）表をご記入いただき，当日，お持ち下さい。当日会場で行う検温や当日提出の体調チェック表で症状があった場合は入場できません。また，体調チェック表をご提出いただけない場合も入場をお断りすることがあります。

鹿児島県高体連柔道専門部